

# 会 議 録

会 議 録	令和 7 年度山陽小野田市高齢者保健福祉推進会議（第 1 回）	
開催日時	令和 8 年 2 月 5 日（木） 1 5 時から 1 6 時 3 0 分まで	
開催場所	A スクエア 会議室 1 A ・ B	
出席者	石原克宏委員、伊藤紀委員、伊藤武委員、井上恵子委員、 上林雅樹委員、上村篤子委員、上村誉恵委員、屋宮ミナ子委員 金弘智委員、草田和枝委員、坂井久美子委員、佐藤智充委員 永富恵子委員、平中政明委員、堀田慎一郎委員、林令子委員 吉村恵利香委員	
欠席者	井上孝子委員、江本尋美委員、 長谷亮佑委員	委員数 20 人 出席者数 17 人 欠席者数 3 人
事務局	（福祉部高齢福祉課） 福祉部長 尾山貴子、福祉部次長兼子育て支援課長 石田恵子、 福祉部次長兼高齢福祉課長 田尾忠久、 高齢福祉課技監兼地域包括支援センター所長 荒川智美、 高齢福祉課長補佐 竹内広明、 高齢福祉課主査兼高齢福祉係長 藤永一徳、 高齢福祉課主査兼介護保険係長 別府奈緒美、 高齢福祉係 若松美里、福田優子	
会議要旨		
<p>&lt;開会&gt;</p> <p>1 辞令交付</p> <p>2 福祉部長あいさつ 会長、副会長選出</p> <p>3 議事（審議事項）</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 第 9 期山陽小野田市高齢者福祉計画の進捗状況について 事務局が資料 1 から資料 3 について説明</p> <p style="padding-left: 20px;">○資料 1 の主な意見・質疑応答</p> <p style="padding-left: 20px;">基本目標 1：生涯現役社会づくりの推進</p> <p style="padding-left: 20px;">【委員】</p> <p style="padding-left: 40px;">生きがい健康づくり推進事業について、後継者不足で老人クラブの運営が困難になっており、毎年 2～3 クラブが消滅している現状がある。今後は RMO（地区運営協議会）と連携し各地域での運営を目指していくことで、活動拠</p>		

点が広がり、現会員以外の高齢者も生きがいをもって生活できるようになるのではないかと考えている。

**【委員】**

RM0（地区運営協議会）には今後より発展的な活動を期待したい。

**【委員】**

RM0（地区運営協議会）の活動について、敬老会や見守り活動などそれぞれの事業には年齢などの対象範囲があるため、どこまで連携できるか難しい部分があり、研究が必要と考える。

**【事務局】**

老人クラブの減少については承知している。令和6年9月にRM0（地区運営協議会）が設立され、地域づくりの考え方の転換期と認識しているため、今後もご意見を伺いながら事業に取り組んでいきたい。

基本目標2：高齢になっても住みよい地域づくり

**【委員】**

日頃から在宅介護者に関わっており、在宅で孤独に苦しんでいる家族の力になりたいと思っている。助けを求めることができなかつたり、最悪のケースになったりすることを心配している。どのように支えるか、支援を必要とされる方の情報をどのように把握できるのか苦慮している。

**【委員】**

民生委員には担当地区があり、自治会長や福祉委員と情報の共有を行って困りごとの把握に努めているが、民生委員不在地区については困難さがある。不在地区をなくせるよう民生委員の活動について市民に情報発信できる場があればと思っている。

基本目標2：高齢になっても住みよい地域づくり、

基本目標5：介護（予防）サービスの充実

**【委員】**

ケアマネジャー連絡会の参加率の減少は、ケアマネジャーの減少によるものか。また、事業所の休止・廃止等により運営指導が減少したとの説明があったが、事業所が減少傾向なのか、もし支える立場である事業所が減少しているならば適正なのか市の認識をききたい。

**【事務局】**

まずケアマネジャー連絡会の参加率の減少について、ケアマネジャーは若干減少傾向にあるが、参加率減少の要因とは考えていない。ケアマネジャーに必要な情報提供ができるよう内容のブラッシュアップ等に努めたい。次に、運営指導の実施事業所の減少について、本計画を策定した令和5年度時点と比べ、休止・廃止等される事業所が出ているほか新規開設や大規模化により市が運営指導を行う対象から外れた事業所もある。本市の傾向として通所介

護事業所が比較的多い地域でもあり、現時点でサービス提供事業所が不足しているとは認識していないが、今後も介護サービスの提供状況に注視していきたい。

#### 基本目標 4：認知症施策の推進

##### 【委員】

山口東京理科大学で協力できることとして認知症サポーターの養成講座があるが、大学での講習会の実施や計画はあるか。

##### 【事務局】

毎年1年生を対象に認知症サポーター養成講座を開催している。昨年は都合がつかず開催できていないが、今後も開催させていただきたいと考えているので、学生の参加に協力をお願いしたい。

#### ○資料2の主な意見

##### 【委員】

看護小規模多機能型居宅介護は在宅と施設の両方を兼ねている。現場の声として、医療が必要になっても在宅を希望される方が非常に増えており、医療的ニーズが増加している。家族の介護がキャパオーバーになったときに支援できるよう準備している。医療的ケアの資格が必須のサービスなので、人材確保や質の確保が難しい現状にあることを報告する。

- (2) 保険者機能強化推進交付金等の評価結果について  
事務局が資料4について説明  
質疑なし

#### 4 その他

第10期山陽小野田市高齢者福祉計画の策定について  
事務局が資料5について説明

#### ○資料5の主な意見

##### 【委員】

計画は国の指針などに基づいて策定されていると思うが、その中に委員からご意見があったような山陽小野田市での困りごとが具体的に反映されることが重要であると思うので、市独自に進められるものが一つでもあると望ましい。

#### ○その他意見

##### 【委員】

認知症カフェを行っているが、高齢者の一番の困りごととして免許返納後の交通の不便さを挙げられる方が多い。また、山口東京理科大学の学生に認知

症カフェに来てもらって話す機会を設けているが、参加者からは若い方と接すると元気が出ると言っていたので、若い方とのふれあいの機会を作っていただけで嬉しい。

<閉会>